

## キャンプにおけるボランティア指導者の研究 — 東京YMCAキャンプリーダーの調査から —

○杉内 伸生（東京YMCA野外教育研究所）

キャンプリーダー，ボランティア，参加動機

### 1. 目的

最近，文部省が高校や大学入試でボランティア活動を評価することを求めたため，ボランティア活動を行う中・高生が増加したと報道された。また，レジャー白書 '94<sup>2)</sup>の余暇活動に関する調査は，ボランティア活動参加者の拡大を示唆している。このようにボランティアは文化・スポーツ活動をはじめとする社会活動の担い手として評価されてきている。

キャンプはそのほとんどが夏の限られた時期に集中しており，指導者もその期間だけのボランティア指導者という形態が比較的多い。YMCAキャンプにおいても同様に，指導者の多くはボランティアリーダーである。

キャンプを企画・実施する上で，参加者と対面的な関係にある指導者について理解を深めておくことは，キャンプの目的を実現させるために重要なことであると考えられる。そのためにも様々な方向からボランティア指導者に関する研究が進められることが望ましい。しかし，スポーツ種目のボランティア指導者の研究は見られるが，対象をキャンプ指導者に限定したものは綿ら<sup>1)</sup>による障害児キャンプのボランティア指導者に関する研究などの他，あまり行われていないのが現実である。

そこで，本研究は，東京YMCAキャンプのボランティア指導者の実態や意識を調査し，参加動機や目的，活動阻害要因等を明らかにすることを目的とした。

### 2. 方法

- 1) 調査対象者：1993年度東京YMCAサマーキャンプリーダー（デイキャンプ含む）
- 2) 調査期間：1993年 9月
- 3) 調査方法：留置法による質問紙調査（リーダー会等で直接配布，回収を行った）
- 4) 有効回答数：235部

回答者の基本的属性を図1～図6に示した。

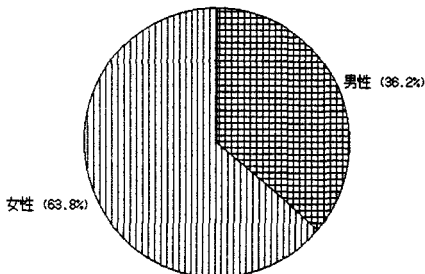


図1 性別

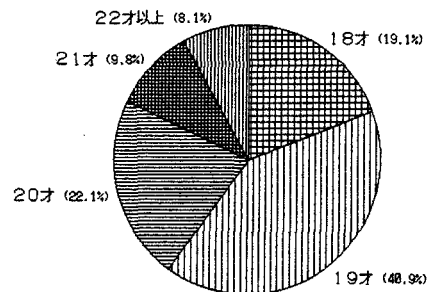


図2 年齢

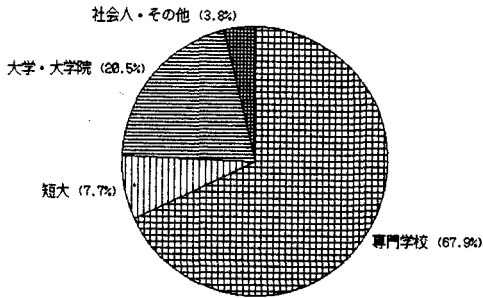


図3 職業

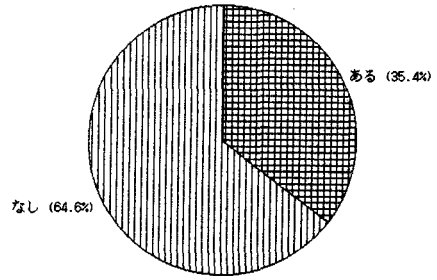


図4 過去のボランティア経験

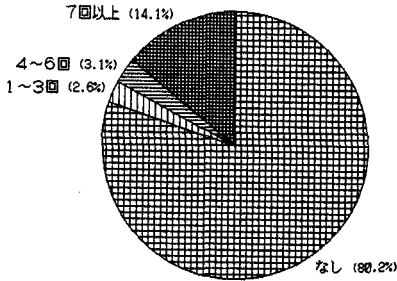


図5 YMCAキャンプメンバー(参加者)経験

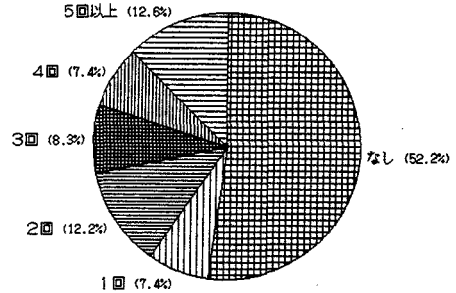


図6 YMCAキャンプリーダー経験

### 3. 結果および考察

1) キャンプリーダーを、実習群(指導実習、現場実習など単位取得を目的としてキャンプに参加する者)と非実習群(単位取得を目的としない者)に分け、動機の各項目の平均値をも検定によって有意差を検定し、結果を表1に示した。

その結果、「自分の生きがいとなっているから」や「いろいろな人と出会いたいから」など自己実現、コミュニケーションに関する項目で有意な差が認められた。

(東京YMCAのキャンプには専門学校生が夏期実習の単位取得のためにキャンプに参加しているため、比較的多くのサンプルの収集が可能であった。)

2) 図7に見られるように、キャンプリーダーを経験してプラスになったことは、「新しい知識・技能を身につけることができた」(64.7%)、「よき友人を得た」(64.2%)など、他者への奉仕より本人に関する項目が上位にあげられた。

3) 図8に見られるように、キャンプリーダー活動上での問題は、「時間的な負担が大きい」の回答が半数以上(56.2%)を占めた。

このことは、ボランティアリーダーのほとんどが学生であり、学校の講義、アルバイト、サークル活動などとの時間調整の難しさのためと推測される。このことから、時間的な拘束がリーダー活動の障害要因の一つとして考えられる。

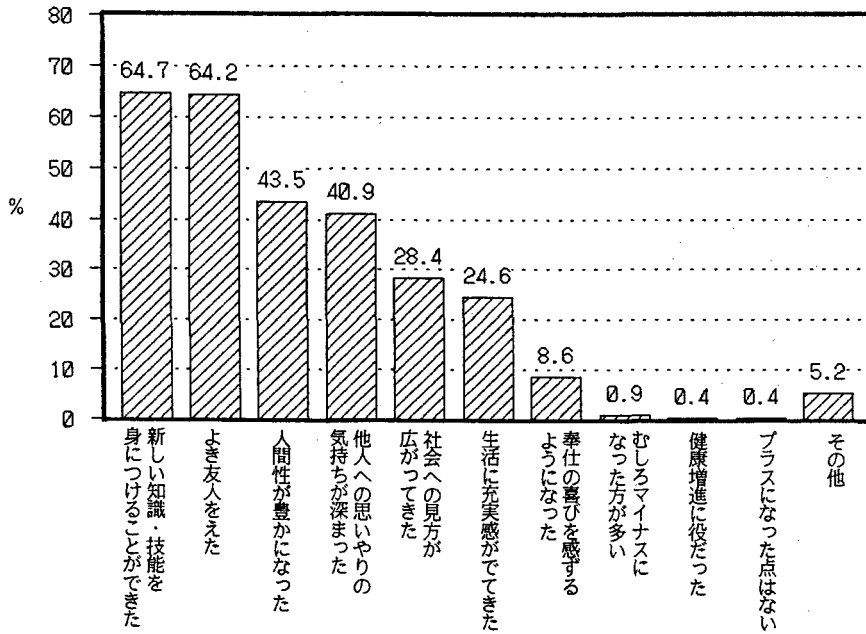


図7 キャンプリーダーを経験してプラスになったこと  
(複数回答；数字は全回答者に対する比率)

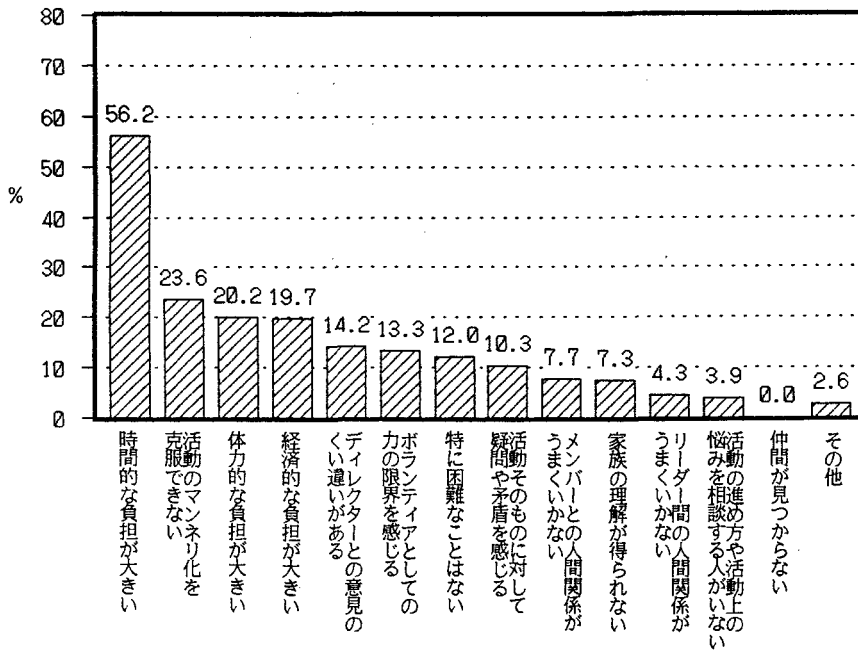
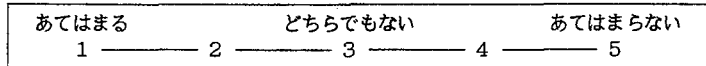


図8 キャンプリーダー活動を行う上での問題  
(複数回答；数字は全回答者に対する比率)

表1. 実習群と非実習群のt検定による動機の差異

質問項目	動機の平均値		t-Score	p
	実習群 (n=130)	非実習群 (n=97)		
1. キャンプを盛り上げたいから	2.385	2.474	0.55	
2. リーダーとしてメンバーを指導したいから	2.315	2.464	0.91	
3. メンバーと交流することができるから	1.646	<u>1.299</u>	2.91	**
4. YMCA (ディレクターなど) から依頼されたため	<u>3.628</u>	4.237	3.36	**
5. いろいろな人と出会いたいから	1.685	<u>1.289</u>	3.18	**
6. ボランティアの必要性を理解してもらいたいから	3.069	3.237	1.15	
7. メンバーの心の支えになりたいから	2.411	2.351	0.39	
8. 何事にも挑戦してみたいから	1.633	1.495	1.14	
9. 自分の知識や経験を生かしたいから	2.163	2.103	0.38	
10. キャンプ運営の中心的な存在として活動したいから	2.939	2.897	0.27	
11. 余暇時間を有効に過ごせるから	3.023	<u>2.619</u>	2.11	*
12. 身内や友人・知人と一緒に参加したいから	3.092	3.454	1.87	
13. 自分自身が成長したいから	1.492	1.299	1.82	
14. 毎年参加しているから	4.008	3.742	1.43	
15. 自分の生きがいとなっているから	3.411	<u>2.537</u>	5.07	**
16. 新しい知識や経験を得たいから	1.550	<u>1.320</u>	2.25	*
17. 学校の仲間が参加するから	<u>3.023</u>	3.990	5.35	**
18. 他のリーダーと交流する機会が得られるから	2.046	<u>1.726</u>	2.02	*
19. 知人・友人に誘われたから	3.680	3.619	0.32	
20. キャンプに自分が必要であると感じているから	3.300	3.412	0.70	
21. キャンプを通してYMCA活動に貢献したいから	3.188	3.063	0.76	
22. 社会的な視野を広げるために重要であるから	1.938	1.835	0.75	
23. 日常生活に張り合いを与えてくれるから	2.654	<u>1.990</u>	4.20	**
24. 青少年の野外活動を支援したいから	2.815	2.825	0.06	

\* p<.05 \*\* p<.01



#### 4. まとめ

レジャー白書 '94<sup>2)</sup>で指摘された「日本人の生き方に奉仕型（人につくす，人に奉仕することこそが大切という生き方）が減っていることは，最近のボランティア活動への関心の高まりと相反するよう感じられるが，自分の世界の拡がりや交流の楽しさなど，むしろ自分のためにするという最近のボランティア活動の考え方もあることに注意すべきだろう。」という分析と同様の傾向が本調査の結果から得られた。

加えて，今後増加するであろう「単位取得」や「入学や就職」を強く意図したボランティアについて，今後の受け入れ体制等にも検討の余地があると考えられる。

#### 【主な引用・参考文献】

- 1) 綿 祐二・野川 春夫・池田 勝(1990)障害児キャンプのボランティア指導者の継続行動に関する研究. 日本体育学会第41回大会号A:104.
- 2) 余暇開発センター編(1994)レジャー白書'94. 余暇開発センター:東京.